

1 研究主題・副題 (案)

夢や希望をもち、心豊かに高め合う富田の子どもの育成
～キャリア教育の視点を取り入れた授業を通して～

2 主題設定の理由

現在の子どもたちを取り巻く環境は近年大きく変化している。子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化、流動化等は、子どもたちの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしており、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。また、環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響をあたえ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができないなどの子どもが増加が指摘されている。

このような厳しい状況の中で、学級・学校・家庭・地域社会などにおける様々な活動を通して、将来設計の基盤となる「夢や希望」をはぐくみ、目標の達成を目指して努力することの大切さを体得させ、自信や自己有用感を高める機会を計画的に設けていくことは非常に重要であると考えられる。即ち、自分自身を見つめ、社会や人々と自己をつなぎ、課題の解決を図りながら、将来を描いていく力や、様々な選択肢の中から責任ある生き方を選び取る力の育成が強く求められ、各学校においても、適切な教育課程を編成し、生きる力をはぐくむことを目指した教育活動を展開することが必要とされてきている。

本校は、新富町の中心部に位置し、各学年3または4学級の大規模校である。素直で元気な児童が多く、学校生活への取組も真面目で意欲的である。

昨年度は、算数科を中心にした研究を行っており、児童同士が説明する力を使ってともに高め合う授業デザインの工夫・改善と算数的活動の充実に、実践を通して取り組んできた。これにより、児童は、学び方を習得し、基礎・基本の定着とともに、表現力・思考力を伸ばし、確かな学力を身に付けてきている。また、算数的活動を充実させたことで、児童に達成感や充実感を味わわせることもできた。

しかし、算数科を中心に育成された高め合いの姿が各教科等でも発揮されるよう指導の継続を図っていくことと、「傾聴」「受容」「共感」「支持」といった互いを尊重する人間関係や規範意識などの社会性を身につけることが課題となっている。

そこで、全教育活動を キャリア諸能力の育成という視点で見直し、今ある教育資源を有効に活用しながら生きる力をはぐくむ取組を推進していくこととした。

各教科の授業においては、これまで通り、授業の「めあて」と「まとめ」および「たしかめ」に一貫性を持たせ、自力解決と高め合いの場を設定する。そこに、キャリア諸能力の育成を図る支援や自己評価活動を取り入れていくことで、すべての教科でキャリア教育の視点を取り入れた授業の工夫・改善を行うこととした。また、キャリア教育の理論研究を行いキャリア教育についての理解を深めると共に、各学年で育成したい能力や態度を明確にし、全教育活動を通して自己有用感を高める取組を行うことができるよう年間指導計画を作成する。

このように、全教育活動を通して、キャリア教育を推進していくことで、児童は自己理解を深め、学習意欲を向上させるだけでなく、基礎的な学力と社会性をしっかり身につけ、将来の夢と学業を結びつけ自分らしい生き方を実践しようとする態度が育成されると考え本主題を設定した。

3 研究の目標

- 夢や希望をもち、心豊かに高め合う富田の子どもを育成するために、キャリア教育の視点を取り入れた授業の在り方を究明する。

4 研究仮説

全教育活動を、キャリア諸能力の育成という視点で見直し、教育活動全体を通して、自己有用感を高める取組を推進するとともに、すべての教科でキャリア教育の視点を取り入れた一貫性のある授業を行えば、児童は自己理解を深め、学習意欲を向上させ、基礎的な学力と社会性を身につけることができるであろう。

5 研究の内容

- ① 理論研究（キャリア教育とは…）
- ② キャリア教育の視点を取り入れた授業作り
 - 「めあて」と「まとめ」および「たしかめ」
 - キャリア諸能力の育成を図る支援や自己評価活動
- ③ キャリア教育の年間指導計画の作成
 - 各学年で育成すべき能力や態度
 - 常時指導、間接指導、直接指導の関連

1 年次

富田小学校ならではのキャリア教育
キャリア教育の理解と、キャリア教育の視点を取り入れた授業の構築

2 年次

富田小学校ならではのキャリア教育
キャリア教育の充実を図る総合的な学習の時間の計画・実践

3 年次

富田小学校ならではのキャリア教育

自己肯定感…自分にだっていいところがあるという気持ち 自分自身を尊重する
自尊感情・プライドに近い

自己有用感…自分と他者（人・集団・社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れる
ことで生まれる自己に対する肯定的な評価

相手の役に立ち、必要にされていると感じること

（人の役に立った、人から感謝された、人から認められた）

キャリア教育…生きる力をはぐくむ教育とほぼ同じ概念を持った教育

- ① 児童が自分に相応しいキャリアを形成するのに必要な意欲・態度
能力を育てる教育

- ② 児童一人一人の勤労観・職業観を育てる教育

キャリア諸能力…4つの基礎的汎用的能力

6 研究組織

(1) 研究推進委員会

研究の具体化に向けて企画、立案するとともに、提案事項について検討し研究の円滑な推進を図る。

【構成】 学校長、教頭、(教務主任)、研究部、各学年部長

(2) 全体研修会

研究の内容についての理論研究を進めるとともに、各チームからの報告・提案の共通理解を図る。

【構成】 全職員

(3) 学年部会

研究主題の具現化を図るために、実践事項の企画・立案・実践・評価を行う。授業研究会、及び自己有用感を高める取組の継続も図る。

【構成】 各学年部員



